

第1回委員会における質疑について（回答）

質問

ごみ処理基本計画において目標値の設定を説明されたが、平成35年度と平成43年度の比較で、②ごみ排出量は、平成35年度が4ポイント以上の減量で平成43年度は8ポイント以上の減量になっているが、④最終処分量は、平成35年度は7.5ポイント以上の削減で平成43年度は40.0ポイント以上の削減になっている。なぜ、最終処分量の減量率がごみ排出量に比べて非常に高くなっているのか？

表：目標値の設定

数値目標項目	現状	目標値	
	基準年度 (平成27年度)	中間目標年度 (平成35年度)	目標年度 (平成43年度)
①ごみ総排出量原単位	956 g	926 g	901 g
平成27年度比	---	-30g以上	-55g以上
②ごみ総排出量	91,606 t	87,942 t	84,278 t
平成27年度比	---	-4.0ポイント以上	-8.0ポイント以上
③資源化率 (収集量ベース)	14.50%	16.50%	18.50%
平成27年度比	---	2.0ポイント以上	4.0ポイント以上
④最終処分量 (収集量ベース)	11,113 t	10,280 t	6,668 t
平成27年度比	---	-7.5ポイント以上	-40.0ポイント以上

減量率が大幅に違うのは？

回答

最終処分量は、一般にごみ処理技術によって変わってきますが、本計画では、最新の技術により焼却による焼却残渣等の生成率（残渣率）を10.3%と設定しています。

平成27年度実績での焼却による残渣率は約15.3%ですが、下図のように新施設が稼動する平成36年度から残渣率を10.3%で計算しますと、平成43年度には6,617トンに削減することになり、平成27年度比で40.0ポイント以上の削減になります。

図：最終処分量（収集量ベース）の目標

